

4. 実施の概観：ESI を作業療法介入プロセスに位置づける

このマニュアルのこの後の章では、どのように ESI を実施し、ESI の結果を解釈し、クライアントの社会交流の質を高めることに焦点を当てた作業を基盤とした介入の計画と実行をするかということについて論じよう。この過程の中では、いかに ESI をクライアント中心の、作業中心のやり方で作業療法実践に統合するかということの枠組みを示すために作業療法介入プロセスモデル (Occupational Therapy Intervention Process Model, OTIPM) (Fisher, 1998, 2009, 2013) を用いる。OTIPM は図 4-1 に示す。

4.1 OTIPM の 3 つの全体的段階

OTIPM で概念化された作業療法介入プロセスは **3 つの全体的段階**から構成されている。それは、**評価と目標設定**、**介入**、**再評価**である。この段階をいかに簡単に述べる。それは包括的な作業療法サービスが提供されるときはいつでも ESI の実施はこの 3 段階を通して進めることだからである。この 3 段階は、最初の依頼箋や作業療法サービスの要求によって始まる (**初回紹介**)。初回紹介は、作業療法士が大まかなクライアント中心の遂行文脈の確立を始めることができるような、クライアントについての広範な情報と共に示される。

4.1.1 評価

クライアントが作業療法サービスに依頼された、あるいは作業療法サービスを求めた後、作業療法士は評価と目標設定の段階を開始することによって介入を始める。この段階は作業療法士がクライアントにインタビューすることで始まり、クライアント中心の遂行文脈の確立に関連する広範な情報収集のために続いていく (図 4-1 参照)。

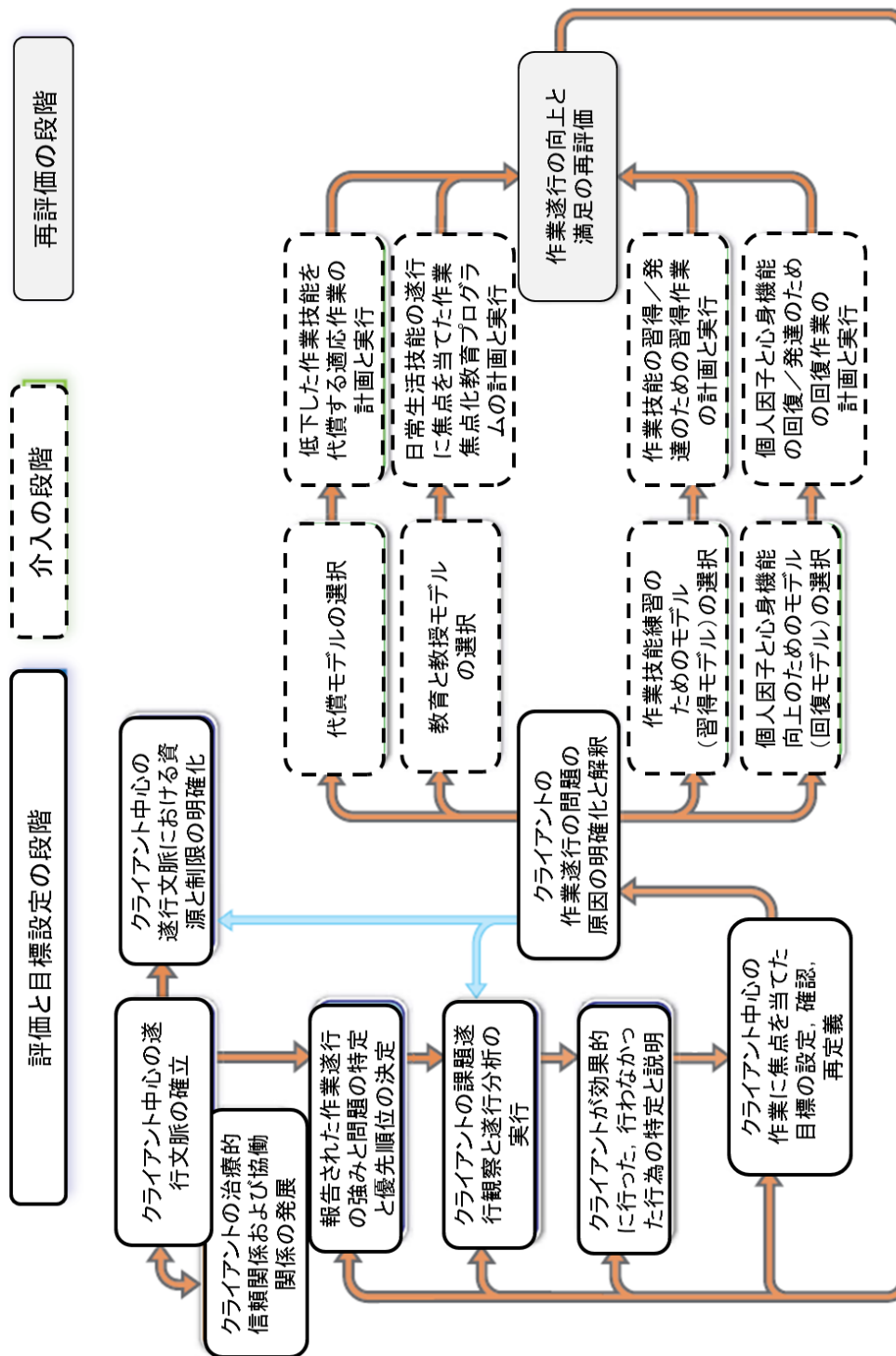


図 4-1. 作業療法介入プロセスの図 Schematic representation of the occupational therapy intervention process. (Adapted from A. G. Fisher [2009]. Occupational Therapy Intervention Process Model: A model for planning and implementing top-down, client-centered, and occupation-based interventions. Ft. Collins CO: Three Star Press. Reprinted with permission.)

クライアント中心の遂行文脈は、クライアントの作業遂行に影響を与えるかもしれない**クライアント中心の遂行文脈における資源と制限**—多くの内的要因（例；モチベーション、心身機能）や外的要因（例；環境、制度）の全体的な見方を作業療法士に提供する。10 側面で構成されているこうした情報は、クライアントが何をしているのか、なぜしているのか、どのようにしているのか、したいあるいはしなければならない日常生活課題を、効果的に、満足して、遂行しているかどうかという文脈を提供する。この情報のほとんどは、クライアントへの作業療法士のインタビューの中で収集される。多くの場合、作業療法に紹介された人に焦点をあてるが、作業遂行の問題を経験しているクライアント群に焦点をあてることもある。

クライアント中心の遂行文脈とは

- クライアントの作業遂行の文脈についての作業療法士の理解であり、クライアント自身の視点から得られるものである。
- 含まれているのは
 - 現存するあるいはクライアントが利用可能な資源と制限
 - クライアントが遂行する必要のある、遂行したい日常生活課題
 - どの日常生活課題遂行を、クライアントが強みあるいは問題として経験しているかということ

作業療法インタビューの間、作業療法士は、日常生活課題遂行において、どの課題が強みであり、どの課題がクライアントにとって問題であるのかを、クライアントが明らかにできるように支援することもする。そして、クライアントは、作業療法士と協働しながら、日常生活課題遂行のどれを問題として、まず焦点をあてるか優先順位を決める（**作業遂行の強みと問題を明確にし、優先順位を決める**）（図 4-1 参照）。

クライアントがどの日常生活課題を優先するかを決めたら、作業療法士の次の段階はその優先される課題の**クライアントの課題遂行を観察し、遂行分析を実施すること**である。もし、優先課題に社会交流が含まれていたら、作業療法士は、人の社会交流の質の標準化された遂行分析として ESI を実施することを選択するかもしれない。

評価段階において、この真のトップダウンの**専門的リーズニングのプロセス**に沿って行うことの重要性を強調することが重要であると私たちは感じている。このプロセスの重視すべき性質は、作業療法士がまずはクライアントの情報を広く収集することから始め、そして、作業に、つまり評価される人に関係のある日常生活課題遂行に焦点をあてることである。**本人がとらえた問題**という「内的な」見方と、**観察された問題**という「外的な」見方の両方を考慮する。そのため、評価プロセスの一つとして、作業療法士は評価対象となる人を観察して効果的に遂行した行為と効果的に遂行しなかった行為（遂行技能）を明確にしなければならない（**クライアントが効果的に行った、行わなかった行為の特定と説明**）。これは、**クライアント中心の作業に焦点を当てた目標の設定、確認、再定義**に進む前に行わなければならない。その後になってからだけ作業療法士は、観察されたあるいは本人がとらえた作業遂行の問題を引き起こしているかもしれない個人因子、心身機能、環境因子はどれなのかを決める（**作業遂行の問題の理由の明確化と解釈**）（図 4-1）。

4.1.2 介入の段階

クライアントの目標と、評価と目標設定の段階が同時に起こり、更なる作業療法サービスが必要だということが示されたら、直接次の段階、つまり介入計画と実行につながる。この 2 つの段階の中で、作業療法士はクライアントの目標と評価結果を明確にし、**介入のための適切なモデルを選び**、クライアントと協働して**作業を基盤とした作業に焦点を当てた介入の計画と実行**をしなければならない（Fisher, 2009, 2013）。介入のそれぞれの選択肢に関しては、図 4-1 に示し、詳細は第 9 章のセクション 9.3 で論じる。また ESI の結果が、社会交流の質の向上や、社会交流の質の満足に焦点を当てた作業療法サービスの計画と実行を導くためにどのように利用できるかについての詳細は、第 9 章のセクション 9.1 と 9.3 で論じる。

4.1.3 再評価の段階

再評価の段階は、提供した作業療法介入が効果的だったか、クライアントの目標が合っていたかを明らかにするために必要とされるエビデンスを集めるために重要である。適切な成果には、作業遂行の質が高まる、作業遂行の満足が高まる、生活役割への参加が増すことが含まれる (Fisher, 2009)。社会交流の質の向上がクライアントの目標であり、介入の焦点である場合、ESI は提供した介入の効果を評価するために使うことができる。再評価と提供した介入の効果のために ESI を使うことについての詳細は、第 10 章を参照して欲しい。

4.2 ESI 施行の 10 段階

ESI 施行は、初回紹介と OTIPM の 3 つの段階と並行しており、10 段階を通して進んでいく。OTIPM の全体的な段階は、表 4-1 の左の欄に、ESI 施行の 10 段階は右の欄に記載されている。より詳しく言うと、10 段階は次の通りである：第 1 段階—初回紹介；第 2 段階—クライアントへの作業療法インタビューの実施；第 3 段階—観察と少なくとも 2 つの社会交流遂行分析の実行；第 4 段階—各社交場面の採点；第 5 段階—観察した社交場面ごとにデータを OT Assessment Package (OTAP ソフトウェア) に入力し、ESI レポートを作成する；第 6 段階—ESI 観察の結果を解釈し文書化する；第 7 段階—OTAP ソフトウェアに社会交流の質を高めるためのクライアントの目標を文書化して、最終的な ESI 結果レポートを作成する；第 8 段階—必要があれば、評価対象となった人の社会交流の質を低下させている理由を明確にする；第 9 段階—作業を基盤とした作業に焦点を当てた介入の計画と実行；第 10 段階—実行した介入の効果を特定するために再評価をする。この 10 段階のほとんどは、図 4-1 に示した OTIPM の段階のいくつかに沿っている。このことは表 4-1 にも要約されている。

表 4-1 作業療法介入プロセスモデル (OTIPM) と ESI 施行の段階

作業療法介入プロセス	ESI 施行
<p>初回紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> クライアント中心の遂行文脈の確立, パート1-初回紹介 	<p>第1段階 (第5章) -初回紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> 大まかなクライアント中心の遂行文脈確立のプロセスの開始
<p>評価と目標設定の段階</p> <ul style="list-style-type: none"> クライアント中心の遂行文脈を確立する, パート2-作業療法インタビュー クライアントとの治療的信頼関係と協働関係を形成する 	<p>第2段階 (第5章) -作業療法インタビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業療法の特質と目的を述べる 大まかなクライアント中心の遂行文脈を確立するプロセスを続ける クライアントとの治療的信頼関係を形成し, 協働して取り組み始めるプロセスを開始する
<ul style="list-style-type: none"> クライアント中心の遂行文脈における資源と制限を明らかにする 	<p>第2段階 (第5章) -作業療法インタビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> クライアント中心の遂行文脈の資源と制限を明確にする
<ul style="list-style-type: none"> クライアントが報告する作業遂行上の強みと問題に優先順位をつける 	<p>第2段階 (第5章) -作業療法インタビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> クライアントが報告する社会交流に関連する課題遂行を含む作業遂行上の強みと問題を明確にする ESI を施行するかどうか決定する ESI の特質と目的を述べる 今後の評価や介入のためにクライアントが優先する社会交流のタイプを明確にする 少なくとも2つの社会交流の観察を計画する

(続く)

表 4-1 (続き)

作業療法介入プロセス	ESI 施行
<p>評価と目標設定の段階 (続き)</p>	<p>第3段階 (第6章) - 観察し遂行分析を実施する</p>
<ul style="list-style-type: none"> • クライアントの優先する課題遂行を観察し、遂行分析を実施する：遂行分析、パート1-日常生活課題遂行の観察 	<ul style="list-style-type: none"> • 典型的な社交相手との社会交流を少なくとも2つ行っているのを観察する • 観察メモをとる
<ul style="list-style-type: none"> • 人が効果的に遂行した、しなかった行為を明確化し、記述する：遂行分析、パート2-観察した課題行為 (作業遂行技能) の質を評定する 	<p>第4段階 (第7章) - ESI 観察を採点する</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての ESI スコアフォームに評価対象となった人の情報を記録する - 遂行文脈を決める内的要因 • 観察した各社交場面の特徴を記録する - 遂行文脈を決める外的要因 • 各社交場面において社交相手の数と主な社交相手が誰かを記録する - 遂行文脈を決める外的要因 • 各社交場面での主な社交相手の特徴を記録する - 遂行文脈を決める外的要因 • 各社交場面の全体的な快適さのレベルを評定する • 各社交場面での社会交流の全般的な質 (QoSI) を記録する • OT Assessment Package に入力するための社会交流の質 (全体的ベースライン) を要約する

(続く)

表 4-1 (続き)

作業療法介入プロセス	ESI 施行
<p>評価と目標設定の段階 (続き)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観察した各社交場面の ESI 項目ごとに採点する
<ul style="list-style-type: none"> 効果的に遂行された／しなかった課題行為を特定して説明する：遂行分析，パート3－観察した作業遂行の質を要約するレポートを作成する <p>注：遂行分析のこの段階は，作業療法士が OT Assessment Package に評価対象となった人のデータを入力した場合にのみ可能となる</p>	<p>第5段階（第8章）－ESI 観察データをコンピュータに入力し，ESI 結果レポート，ESI 素点レポートを出力する</p> <p>注．以下に挙げるデータのすべては，ESI レポートが作成される前に，OT Assessment Package に入力されなければならない．</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価対象となった人の情報を，OT Assessment Package に入力する 観察した各社交場面の次のデータを OT Assessment Package に入力する <ul style="list-style-type: none"> 観察した社交場面の目的の特徴 時間帯，物理的環境の馴染みの深さ，期待される構造の程度，騒音レベル 社交相手の数，主な社交相手が誰か 主な社交相手の特徴 社交場面の全体的な快適さのレベル 評価対象となった人の社会交流の全体的な質 (QoSI) 各 ESI 項目の点数

(続く)

表 4-1 (続き)

作業療法介入プロセス	ESI 施行
<p>評価と目標設定の段階 (続き)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 評価対象となった人の全体的ベースラインを、OT Assessment Package に入力する ESI 結果レポートと ESI 素点レポートを作成する
<ul style="list-style-type: none"> クライアントが効果的遂行した、遂行しなかった課題行為を特定し説明する：遂行分析パート 4-効果的に遂行した、遂行しなかった作業遂行技能のクラスターを作り要約する、そして遂行分析の結果を文書化する 	<p>第 6 段階 (第 8 章) - ESI 結果を解釈し文書化する</p> <ul style="list-style-type: none"> 効果的に遂行した、しなかった社会交流技能 (ESI 項目) のリストを作成する 評価対象となった人が効果的に遂行しなかった ESI 項目を、意味のあるクラスターにグループ化する その人が効果的に遂行した ESI 項目を意味のあるクラスターにグループ化する 社会交流の質の具体的なベースラインを書くことにより、各クラスターをそれぞれ要約する OT Assessment Package で関連する ESI 項目を選び、それぞれのクラスターごとに具体的なベースラインとなる文章を入力する 能力基準に照らして、ESI 測定値を解釈する 標準範囲の観点から ESI 測定値を解釈する
<ul style="list-style-type: none"> クライアント中心の作業に焦点を当てた目標を設定し、確認し、再定義する 	<p>第 7 段階 (第 8 章) - 社会交流の質を高めるためのクライアントの目標を文書化する</p> <ul style="list-style-type: none"> クライアントと協働して、社会交流の質を高めるクライアントの目標を決めるか、確認して文書化する <p style="text-align: right;">(続く)</p>

表 4-1 (続き)

作業療法介入プロセス	ESI 施行
<p>評価と目標設定の段階 (続き)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • OT Assessment Package にクライアントの目標を入力する <ul style="list-style-type: none"> ○ 評価対象となった人の全体的ベースラインに関連するクライアントの目標を入力する ○ 評価対象となった人の具体的なベースラインに関連するクライアントの目標を入力する • ESI 結果レポートを作成する
<ul style="list-style-type: none"> • クライアントの作業遂行の問題の理由を明確にし解釈する 	<p>第 8 段階 (第 9 章) – 効果的に遂行しなかった社会交流技能の理由の明確化し解釈する</p> <ul style="list-style-type: none"> • 介入のための優先事項を決めるのに役立つ ESI 項目の難易度表を使う • 非効果的な遂行技能となってしまったこと (意味のあるクラスターごとに考える) に関連するクライアント中心の遂行文脈の資源と制限を明確にする • 必要ならば追加評価を行う
<p>介入の段階</p> <ul style="list-style-type: none"> • 代償, 教育・教授, 習得, 回復モデルを選ぶ • 適応作業, 集団に対する作業に焦点を当てた教育プログラム, 習得作業, 回復作業を計画し, 実施する 	<p>第 9 段階 (第 9 章) – 介入の計画と実行</p> <ul style="list-style-type: none"> • 作業を基盤とした作業に焦点を当てた介入を計画するためのモデルを選ぶ • 次の 1 つ以上について計画し実行する <ul style="list-style-type: none"> • 以下の 1 つ以上の計画と実施を行う <ul style="list-style-type: none"> ○ 適応作業 ○ 社会交流に関連する日常生活課題の遂行に焦点を当てた集団を対象とした教育プログラム ○ 作業技能トレーニング ○ 個人因子あるいは心身機能トレーニング <p style="text-align: right;">(続く)</p>

表 4-1 (続き)

作業療法介入プロセス	ESI 施行
再評価の段階	第 10 段階 (第 10 章) – 社会交流の質の向上と満足度を再評価する
<ul style="list-style-type: none"> • 作業遂行の向上と満足度を再評価する 	<ul style="list-style-type: none"> • ESI を再施行する • 評価対象となった人の情報を更新し, OT Assessment Package も新しい ESI 観察データを入力する • ESI 結果レポートを作成して, 作業を基盤とした, 作業に焦点を当てた介入実施の有効性を評価する

表 4-1 に示した 10 段階のそれぞれについての詳細を各章で述べる。第 5 章では、クライアント中心の遂行文脈の確立、クライアントとの治療的信頼と強力な協働関係の発展、クライアントが問題領域として受け止めている作業遂行は何かを明らかにし、それが社会交流に関係しているなら ESI をクライアントに紹介する。第 6 章では、少なくとも 2 つの異なる社交場面の間、評価対象となった人を観察し、標準化された ESI 遂行分析のパート 1 を施行することに焦点を当てる。第 7 章では、ESI の採点の仕方と、標準化された ESI 遂行分析のパート 2 を扱い、第 8 章では、クライアントに関連するデータと ESI の素点を OTAP ソフトウェアに入力し、ESI レポート (標準化された ESI 遂行分析のパート 3) を作成することについて述べる。第 8 章では、ESI 結果レポートの解釈に関連する情報についても述べ、ESI 観察の結果の文書化について、評価対象となった人が効果的に遂行した、遂行しなかった行為をクラスターとしてグループ化することを含めて述べる (標準化された ESI 遂行分析のパート 4)。それからこのクラスターを具体的ベースラインと目標を文書化するためのガイドとして使うことを述べる。第 9 章では、介入のための優先事項を決めるために ESI 項目難易度を用い、そして評価対象となった人の社会交流の質を低くしているかもしれない理由の特定と文書化へと進む。

それから作業を基盤とした，作業に焦点を当てた介入の計画と実行のために ESI 観察の結果を使っていくことについて述べる (Fisher, 2013). 最後に第 10 章では，作業療法介入の計画と実行への使い方について論じる. 最後に，**第 10 章**では，評価対象となった人を再評価し，提供した作業療法サービスの効果を評価するときの ESI の使用について論じる.